令和8年度 獨協医科大学大学院看護学研究科
博士前期課程入学試験 問題用紙

試験時間 60 分

専門科目		試験施行日	令和８年２月２８日（土）	
受験番号		氏　名		

問題１．次の文章を読み、設問に答えてください。

我が国における少子・高齢化は、他の先進国と比べてそのスピードが非常に早く、従来の制度のままでは様々な問題が生じる。

Society 5.0 は、日本が直面する少子高齢化、環境制約、地域格差といった社会課題を、デジタル技術の力で解決しようとする国家戦略であり、医療・看護の領域でも活用が期待され、ロボットや人工知能(AI)の開発と社会的実装の研究が推進されている。

少子高齢化が進む日本において、限られた医療資源を補完し、質の高い医療を維持するために AI の活用は不可欠である。しかし、AI が医療の一部を担うようになったからこそ、患者の尊厳や安全を守るための看護師の倫理的判断がこれまで以上に重要な課題となっている。

問１．医療・看護の実践において、活用することが期待される AI 技術にはどのようなものがあるか述べてください。

問２．問１で取り上げた AI 技術について、看護における利点と倫理的課題を論じたうえで、AI 技術を看護実践の場面で活用する場合、看護職に求められる役割について述べてください。

（解答は解答用紙へ記入すること）

問題２．以下の事例を参考に、あなたが経験した「合意形成」が必要だった事例と実際に行った看護介入を述べ、看護上の課題を論じてください。

〈事例〉

80 代前半の心不全増悪で再入院した患者 A さんは、症状増悪時でも「できるだけ自宅で過ごしたい」と一貫して希望していた。

一方、同居家族は「在宅では急変に対応できないため、なるべく積極的治療を継続してほしい」と考えていた。

主治医は、患者の意思を尊重しつつも、病状の不安定さから「再入院を繰り返す可能性が高く、在宅療養の継続にはリスクが大きい」と判断していた。

患者・家族・医療者の三者で話し合いを行ったが、

- 患者：自宅で過ごす時間を優先したい
- 家族：「自宅では見きれない」という不安が強い
- 医療者：医療的リスクを考えると施設入所や治療強化が妥当

（解答は解答用紙へ記入すること）